

支援者の方にとっても、
特別な体験となりますように。

Plan Donor-tied Projects

プラン特別プロジェクトのご案内

子どもと笑く、未来のしくみ



学校や診療所、給水設備の新設。
そうしたひとつのプロジェクトを、
個人や企業で「まるごと支援」。
あなたの温かいお気持ちが、
多くの人を笑顔にします。

自分の価値観にあわせた、社会貢献をしたい。
子どもたちの実情を知るにつれ、
これまでの寄付では気持ちが収まらなくなった。
そんな温かく、また力強いご要望にお応えしています。
プラン特別プロジェクト。
住民が切望していた学校や給水設備の新設などを、
おひとり、あるいは企業一社でご支援いただく仕組みです。
地域全体が豊かに生まれ変わることで、決して夢ではありません。
「私のほうが感動した、救われた」。そうした感想もよく聞かれます。
人生の節目の記念に、企業のCSR活動の一環として。
ぜひ、プラン特別プロジェクトをご検討ください。

プラン特別プロジェクトは、「支援者の意向に沿って」進めます。

- 個人おひとり、もしくは企業一社で、ひとつのプロジェクトをまるごと支援する仕組みです
- プロジェクトには、教育・保健衛生・収入増加・子どもの保護など各分野があります
- 支援者のご要望をお聞きしながら、活動側側のニーズも勘案し、具体的なプロジェクトの内容・予算などを決定していきます
- プロジェクトにより予算は異なります。まずは詳細をお問い合わせください
- プロジェクト活動地域を訪問し、落成式などの記念イベントに参加することができます
- プロジェクトにより、支援者のお名前などを明記した記念プレートを付けることができます

「プラン」は国際NGO。国連に公認・登録されている民間の団体です。

- 「プラン」の誕生は1937年、70年以上の歴史があります
- 「プラン」の目標は、すべての子どもたちが能力を最大限に発揮できる世界の実現です
- 途上国48カ国で活動しています
- 現地の子どもたちとともに、生活環境改善のための地域開発プロジェクトを実施します
- 現地では、子どもを含めた住民たちが、主体的にかかわりながらプロジェクトを進めます
- 最終的には住民たちが自立し、地域の問題が抜本的に解決することをめざします
- 政治や宗教には中立の立場です
- 日本では7万人の支援者と、1,000人のボランティアに支えられています

支援者の声

どうして支援を？率直な問いかけに対し、丁寧に答えいただきました。



【支援までのあらすじ】

もともとスポンサー 以前から継続的な支援方法の「プラン・スポンサーシップ」をやっていました。ただ仕事が忙しくて、チャイルドとの手紙のやりとりも思ったようにできなくて…。これでは子どもだって可哀想と思い、他の支援はないものかとプラン・ジャパンのウェブサイトへ、そこで見つけたのが「プラン特別プロジェクト」でした。

家族への感謝を形に 振り返ると私は、両親、兄、姉、そして祖父母に育ててもらい、ここまで成長できたと思っています。そうしたことへの感謝の気持ち、そして成長のあかしを示すには、ぴったりの支援だと感じました。また、プラン特別プロジェクトで完成した施設には、記念プレートが設置されるというのもツボ(笑)。行ったこともない国に、私のやったことが残る。なんて素敵なんだろうと、うっとりしてしまいました。

資金は積立貯金から 当時、車を買換える目的で貯めていたのですが、買って嬉しかったのは自分だけ。しかも私は飽きっぽいので、1年も経てば感動もなくなってしまいます。それなら数百の人に喜んでもらうほうが、ずっと有意義だと思ったんです。

提案を聞いて震えが そうして使える金額が見えたところで、プラン・ジャパンにプロジェクトの内容と予算を相談しました。後日、給水プロジェクトの提案書が届き、私は「それだ!」と直感。すぐ承諾しました。こうした支援は以前から気になっており、今度は私が直接、聞かれるわけです。目を通したら震えが来ました。ただ、もっとドキドキしたのは、お金を振り込んだとき。なにしろ何百万という額です。プラン・ジャパンから受領の連絡をもらい、初めてほっとしたのを覚えています。

【支援に込めた気持ち】

「こんな人に支援してもらったんだよ」って、
現地でも語り継がれる。そんなシーンを夢に見ます。

私はたまたま日本に生まれ、社会人として無事に暮らしています。でも世界に目を向けると、飲み水を得ることすら大変な子どもたちがいる。彼ら、彼女らは、そうした国に生まれただけ。人は国ごとに分かれて生まれてくるのであって、元をたどれば一緒じゃないか。それなら豊かな国に生まれてきた私は、日本へ出稼ぎに来ているようなもの。ある時、そう気づいたんです。プランの支援者になってからは、嫌なことがあっても「今月もあの子に5,000円送るから、仕事しなきゃ」と考えるようになりました。無理していると指摘する人もいますが、私は負担に感じません。月3,000円でも、1回だけ高めのランチや外食を控えれば出せる金額です。もっと何か、自然な感覚。いいことあったから、お財布の1,000円を寄付してみようかな…そのくらいの気持ちです。

私はまだ30代。資産も特になのに、なぜ高額な寄付を?と不思議がられることもあります。実際、知人に伝えても、なかなか理解されません。中には、だまされているという人まで。傷つきもしましたが、今は平気です。自分自身は幸せな気持ちでいられますから。いま、こんな夢を見ているんです。子どもたちが大人になって父や母になったとき、「子どもの頃にこんな日本人がいてね、給水プロジェクトがあったから学校に行けたんだよ」と伝えてくれる。そうなったときの感動は、何かを買って得られるものではないと思っています。

【お母様から】

気負いもなく、寄付を楽しんでいるようです。途上国の子どもたちへの支援は、映画や旅行と同じ感覚なんです。ふだん私生活にはお金をかけず、買う物と言えば仕事で使うバッグとか。仕事と支援だけの生活で、とうとう給水プロジェクトをそっくり引き受けてしまいました(笑)。年頃だけに親としては心配になることもありますが、こうした道を歩む姿は、親から見てもすごいと感じます。

親への感謝、
自分の成長のあかし、
日本に生まれた幸運。
すべての思いを、
支援に込めています。

ネパールの給水プロジェクト

給水設備を設置。管理トレーニング、
保健衛生の意識向上までを含む総合的な取り組みです。



宮城県在住

佐藤 祥子(さとう ゆきこ) 様

医療機器メーカーで営業を担当されています。
プラン・ジャパン以外にも、盲導犬協会へ
寄付を行っているそうです。

国への興味が、いつしか
子どもたちへの思い入れへ。
私の支援が、児童労働の
撲滅につながれば素敵ですね。

スリランカの図書館プロジェクト

小学校2校に図書館と図書を寄贈。
回し読みしてボロボロになっていた教科書や
参考書が、きちんと整備されました。



岐阜県在住

保木 陽三(ほき ようぞう) 様

税理士事務所を営まれています。
プランのお付き合いは長く、
プランの仕組みにも強い関心をお持ちです。

【支援までのあらすじ】

最初は国への興味から 私は歴史が好きで、スリランカの仏教遺跡などに興味を持っていました。「いつかは行ってみたい」と思っていた頃、たまたまプラン・ジャパンの新聞広告が目にとまり、支援先として同国も紹介されていたんです。ご縁ができるのではと期待し、軽い気持ちで「プラン・スポンサーシップ」を始めました。もう18年も前のことです。

子どもたちに関心が移る その後、支援者同士の地域の集まりなどに出たり、動機先にプラン・ジャパンの事務局長をお呼びして講演をさせていただいたり。そうして交流を深めているうちに、「プラン特別プロジェクト」なるものがあると知りました。ちょうど会社を辞めて退職金もあったので、絶好のタイミングだと思い、プロジェクトの提案を依頼。プランへの支援を始めて7年が経過し、子どもたちへの意識の方も高まっていました。

児童労働を撲滅したい それまでスポンサーとして交流していたスリランカのチャイルドが、プランが地域から撤退することにより、突然「卒業」となりました。次にスポンサーとなったチャイルドはインドの子どもであったため、「スリランカとのお縁はこれで終わるのかな」と思っていました。ところが、意外なところでご縁が復活しました。インドのチャイルドを訪問した際、現地での児童労働の問題を知ったのですが、これはスリランカでも同様であると直感。図書館の建設、すなわち「プラン特別プロジェクト」への支援を思い立ったのです。私は教育の専門家ではありませんが、児童労働をなくすためには、教育水準の向上が必須だと考えたわけですね。

自分が死んでも残るもの 現地には何度も行きました。建てたのは2棟、どちらも落成式に出席しました。日本で建てれば何千万円という施設も、スリランカなら大型車を小型車にすれば捻出できる金額です。支援は自分が死んでも成果が残る、普通の生活では得難い体験。この喜びを、多くの人に伝えたいと思っています。

【支援に込めた気持ち】

子どもに届き、喜ばれ、自分の喜びにつながる。
だからこそ、お金の使い途には目を光らせてたい。

支援している自分のほうが救われる気持ちです。仏教に「自利利他」という言葉がありますが、まさにその通り。現地へ行き、子どもたちが喜んでくれる姿を見る。それがそのまま、自分の喜びになるんです。後から何か得になるとか、気にしたこともありません。

一方で、寄付したお金の使い途には強い関心があります。一般的に寄付と言えば、資金を出したら後はお任せのスタイルが多いもの。でもプランは違います。たとえば農作物の作り方を教え、収入を増やす取り組みを村人たちと行っている。現地の人も、「この畑はプランのおかげ!」と教えてくれます。プランの言う「開発支援」の典型ですね。

ちなみにスリランカへは4回行きました。インドとエルサルバドルにも交流しているチャイルドがいたので、それぞれ1回ずつ。行くときはだいたい一人もしくは家族とです。時間もお金もかかり、場所によっては危険もある。観光ならきっと行かないでしょう。またイギリスのプラン本部も見学させていただきました。ここまでする支援者は珍しいようですが(笑)、お金が届くのはプランが介在してこそ。そこはいつも忘れないようにしています。





タケダ-Plan 保健医療アクセスプログラム

■タイ【若年層のHIV/AIDS感染予防】

HIV感染者の多くが青少年。予防教育を目的として、非公式学校を加えた全21校で性教育を実施中です。

■フィリピン【子どもの医療支援】

医療支援体制が不足している地域において、入院・治療、治療薬の購入、医療機器の支給を行なっています。

■中国【子どもの栄養改善】

農村部における子どもたちの栄養不足は慢性的。4校・6,500名を対象に食事の無料支給などを行っています。

■インドネシア【屋外での排泄禁止】

同国では下痢性疾患などにより多くの子どもが死亡。毎年5村を対象に「屋外排泄ゼロの村」の達成をめざします。

企業の支援事例 武田薬品工業株式会社様

グローバル企業にふさわしい、
社会的責任を果たすために。
実績を重視し、プランを
パートナーに選びました。



【お話を伺った方】

武田薬品工業株式会社
コーポレート・コミュニケーション部
主席部長 (CSR)
城戸 浩史 (きと こうし) 様

支援のきっかけ グローバル企業にふさわしい社会的責任が求められる

武田薬品は今年で創業230年を迎えます。日本国内では、アリナミンやベンザなどの一般用医薬品で知られていますが、売上の9割以上は医療用医薬品で、その約半分は海外における販売によるものです。海外展開は、従来はアメリカやヨーロッパ中心でしたが、今後は途上国を含む新興国マーケットにも注力する方針です。ここ数年で進出地域が急速に拡大し、2010年度現在で、おおよそ世界市場の85%をカバーしています。グローバルに事業を展開する企業として、国際社会からは、これにふさわしいレベルでの「社会的責任」の実践を強く求められています。当社は、企業市民としての自主的な行動を促す枠組みであるグローバル・コンパクト®に加盟し、CSRの理念的なバックボーンとしました。グローバル・コンパクトは、当社の経営理念であるタケダイズムと合致する部分が多く、加盟を契機として社内のCSRへの意識が高まったと感じています。具体的な施策の立案に際しては、人々の生命(いのち)に携わる製薬企業として当社ができること、行なうにふさわしいことは何かを徹底的に突き詰め、対象を「生命・健康にかかる保健医療分野、エリアは既に事業展開しているアジアの4カ国」に設定し、プランニングに入りました。

※グローバル・コンパクト(GC) / 1999年1月31日に開かれた世界経済フォーラムの席上において、コフィー・アナン国連事務総長(当時)が提唱。企業のリーダーに国際的なイニシアチブであるGCへの参加を促し、人権、労働、環境の各分野における10原則を支持するというもの。(国連HPより抜粋)

なぜプラン・ジャパン? 企画・提案力と、世界での実績を見て決定

これまで繋がりがあったNGOを中心に、ご相談をさせていただきました。その結果、プラン・ジャパンの企画力、実行力、報告力が優れていると判断し、パートナーシップを結ばせていただきました。過去の豊富な実績は、プラン・ジャパンを知らない方々でも安心してできるものです。早速、プラン特別プロジェクトを通じて、タイ、フィリピン、中国、インドネシアの支援に着手しました。2009年7月のことです。



目に見える成果 社内のモチベーションアップにつながるともに、レピュテーション(社会的評価)も向上

活動が具体化するにつれ、現地の子会社からも感謝の言葉が聞かれるなど、従業員が誇りを持ち、モチベーションアップにつながっていると感じています。また、アニュアルレポートやセミナーなど、様々な機会を通して、このプログラムを紹介させていただいており、レピュテーション向上にも寄与しています。

今後の方針 長期的視野での継続が前提、最低でも5年は続けたい

生命に関わる分野では、1年取り組んで終わりというわけにはいきません。始めるからには、長期的な取り組みが重要です。プラン・ジャパンのプロジェクトも、5年は継続したいと考えています。現地視察を通じて、インフラの整備など、私たちが立ち去っても活用されていくものが多いと確信しました。今後も開発支援の経験が豊富なプラン・ジャパンに期待しています。

必要な手続き

私たちプラン・ジャパンが大切にしているのは、支援者の方の納得感です。資料や提案書をご覧の上、ご検討ください。

【支援までの流れ】

1. 「プラン特別プロジェクト問合せシート」に必要事項を記入の上、プラン・ジャパンにご提出ください。

2. プラン・ジャパンの担当者より、ご希望のプロジェクト内容等についてお伺いします。

約2~4週間

プロジェクトの内容により、これより長くかかる場合もあります

3. プラン・ジャパンより具体的な「プロジェクト提案書」をお送りします。



提案書の事例

4. プロジェクト内容等についてご検討の上、そのプロジェクトへのご支援を決定された場合は「支援同意書」をプラン・ジャパンにご提出ください。

5. 寄付金をお振込みください。

約1週間

6. プラン・ジャパンより寄付金の「受領確認書」「プロジェクト開始のお知らせ」をお送りします。

7. プロジェクトが開始されます。

8. プロジェクト完了後に、プラン・ジャパンより「プロジェクト完了報告書」をお送りします。



完了報告書の事例

【プロジェクトの一例】

プランの活動国において、要望度の高い地域開発プロジェクトの中からご提案いたします。

教育

学校修繕・建設、
教師トレーニング、
学校備品・図書支給など



保健衛生

診療所修繕・建設、
妊産婦ケアトレーニング、
給水設備設置など



収入増加

職業訓練、小規模金融
(マイクロファイナンス)、
農業技術指導など



子どもの参加・保護

出生登録、子ども
メディアプロジェクト、
地域ボランティア
育成など



※支援募集中のプロジェクトの一部は、ウェブサイトでご紹介しています。

プラン・ジャパン ホーム → プランの支援 → プラン特別プロジェクト

プロジェクト訪問

プロジェクトの完了後に現地を訪問、落成式などの記念イベントにご参加いただけます。

※現地までの旅費交通費、および交通手段の手配はご本人負担となります。現地到着後は、当該国のスタッフがご案内いたします。詳細はお問い合わせください。

記念プレート

学校の校舎、診療所などプロジェクトの成果物となる施設には、ご寄付いただいた方のお名前などを明記した「記念プレート」を付けることができます。



イメージ

【個人情報取り扱いについて】

プラン・ジャパンは、皆さまからお預かりした個人情報を厳正に取り扱うため、全従業員が遵守すべき行動基準としての個人情報保護方針(ウェブサイトwww.plan-japan.orgをご覧ください)と、個人情報の取り扱い手順を具体的に示した規程を発行し、全従業員がそれらを遵守するよう徹底を図っております。

●皆さまからお預かりした個人情報は資料送付、連絡業務、個人の職務等の目的に限り利用いたします。●個人情報をお伺いする際のご回答は任意ですが、ご回答いただけない場合には、利用できないサービスがございます。●会報誌等の通信物発送時に、機密保持保持契約を締結している発送代行会社へ個人情報を委託する場合がございます。●皆さまの同意・承諾を得た場合と法令の遵守の必要がある場合を除き、皆さまの個人情報を第三者へ提供・開示等することは一切ございません。●個人情報の開示、訂正、利用停止等のお申し出があった場合は、合理的な範囲の中で速やかに対応させていただきます。

個人情報問い合わせ窓口 TEL 03-5481-3511 (受付時間 平日 9:00-17:30)
Eメール: privacy@plan-japan.org

【税控除】

公益財団法人プラン・ジャパンへの寄付金には、所得税・法人税・相続税・一部自治体の個人住民税の優遇措置が適用されます。所得税および個人住民税に関しては、毎年1月に前年(1月~12月)の寄付金総額の領収証明書をお送りします。法人税に関しては、毎事業年度の終了翌月中旬に寄付金総額の領収証明書をお送りします。相続税に関してはプラン・ジャパンにお問合せください。





プランの目標と使命、そして活動方針。
「子どもたちとともに」が、あらゆる支援の前提です。

VISION プランの目標

人々の権利と尊厳が守られ、すべての子どもたちが能力を最大限に
発揮できる世界を実現する

MISSION プランの使命

1. 子ども、家族、地域の人々が、人間としての基本的な生活条件を備え、
社会活動に参加し、自立を達成できるよう支援する
2. 異なる国籍や文化を持つ人々の相互理解を深め、皆が協力できる関係を築く
3. 世界中の子どもたちの権利と利益の確立を図る

STRATEGIC DIRECTION プランの活動方針

1. 子どもたちとともに途上国の地域開発を進める
2. 貧困に苦しむ子どもたちを長期にわたり支援する
3. できるかぎり多くの子どもを支援する
4. 「子どもの権利」を守るため、世界中の人々をつなげる
5. 問題解決に向けて、政府や関連機関と協力・連携する
6. 子どもたちの声を発信する



子どもと築く、未来のしくみ



公益財団法人プラン・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル11F
TEL 03-5481-0030 FAX 03-5481-6200 (業務時間/土・日・祝日を除く9:00-17:30)
www.plan-japan.org hello@plan-japan.org